



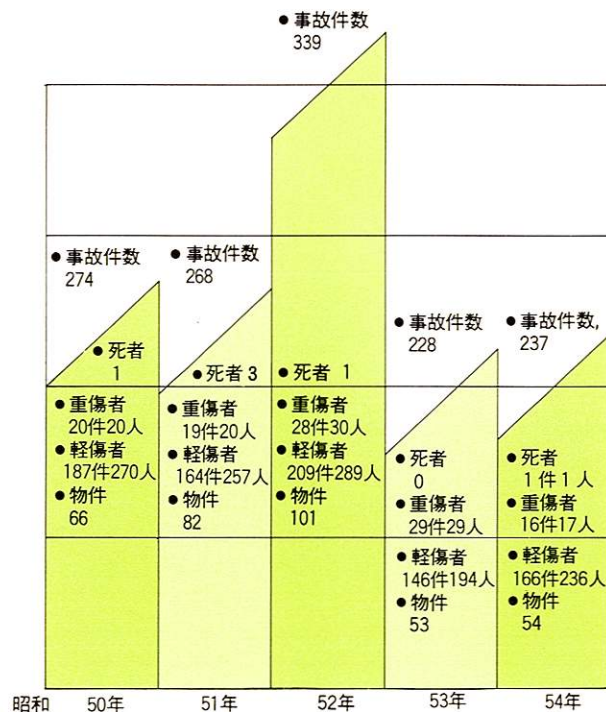
歩行者天国

市民の生命と財産を守る

都市づくりの推進にあたって、まずなによりも求められるのは、市民が安心して暮らすことのできる社会を実現することです。

そこで、市民の生命と財産を守るため、地震、台風、火災などの災害発生危険を排除する総合的な安全確保の体制の強化・充実がのぞまれます。また、交通安全と防犯、公害の防止など、市民の安全と健康の確保に努めます。

●交通事故発生状況の推移



福生警察署提供



起震車

●都市化に対応した消火・救急体制の確立

快適な都市づくりをおし進めるには、不慮の災害から市民を守るための防災体制、安全な環境づくりがのぞまれます。

そのため、市では消防署(137人)と消防団(5分団186人)とがたがいに手をたずさえて防火体制の強化に努めています。最近、初期消火が進み、大火は免れていますが、建物の過密化・高層化などにより、科学的な消火・救急体制の確立をはかっています。

一方、都市的災害が広域的に発生するおそれのある地震などの災害時にそなえて、避難体制づくりをはじめ、災害対策用飲料貯水槽(2基)、災害対策用備蓄庫、防災行政無線などを設置し、市民ぐるみの防災対策を推進しています。



防護柵でガッチリとガード

●歩行者優先を徹底

道路網の整備とモータリゼーションの発達によって、市内の交通量は日ごとに増大しています。とくに国道16号線、五日市街道、奥多摩街道の主要幹線道路は、交通量が多く、裏通りなど日常生活の場へのクルマの進入も著しく増えており、交通事故件数は相変わらず多いのが現状です。

そこで、交通事故から尊い生命を守るため、市は防護柵、街路灯、道路反射鏡など交通安全施設の整備や交通安全教育などを積極的に推進しています。

また、子どもたちを痛ましい事故から守るため、昭和54年第三小学校から国道16号線にぬける市道124号線の牛浜160～福生2474間の440m（幅員1.5m）片側に歩道を設けています。その他、100人の交通安全協会役員が中心となって、子どもの登下校時の交通指導にあたっています。



公害測定

●一刻も早く自然の回復を

産業経済の急速な発展と無秩序な都市化が急テンポに進み、その結果、さまざまな公害が生まれ、市民の生活環境が悪化してきたことは、周知の通りです。

こうした公害や自然破壊から市民生活を守るため、市はこの間、クルマの騒音・振動や多摩川の水質汚濁の測定を行うなど、公害防止に努めています。

昭和53年6月に一部地域で供用開始した公共下水道の整備が着手されるまでは、家庭雑排水などが多摩川に流れ込み、その汚濁が進みました。今後、市民の憩いの場でもある多摩川の浄化がのぞまれます。なかでも苦情の多いのはクルマなどによる騒音・振動で、これからも道路交通体系の整備、道路構造の改善などに努め、総合的な対策を講じます。

はじめに安全ありき